

全国平均より低い図書館設置数

社会教育、生涯学習の充実求める

奈良市には、中央、西部、北部と3つの図書館があります。中核市（人口20万人以上の要件を満たし、規模や能力などが比較的大きな全国62都市）の持つ図書館の平均は5.13館になっており、奈良市は設置数が少ない状況になっています。

昨年度の入館者数や貸出冊数は、コロナ前の令和元年度を超える実績になっており、市民の皆様

の知的探求心を満たす図書館ニーズは高まっていると考えられます。

市は「奈良市の図書館の設置数が少ないと認識している」とし、市内20カ所で定期的な移動図書館や、6歳以下の未就学児と障害のある方、介護を必要とする方を対象に無料で郵送貸出を実施するほか、電子図書館を導入するなど、利便性の向上を目指していると説明。今年度からは新規施策として「図書受取ロッカー」=写真=を設置していくとしました。

図書館全体の蔵書数は60万8000冊ですが、電子図書館の蔵



書数は昨年度末で8000冊、今年度末で6500冊。便利ではあるものの「読みたい本がなかなかない」状況です。社会教育、生涯学習の場として全国レベルより低い図書館数の充実を図っていくためには、複合施設に図書館を併設、新設するなど、教育委員会、市長部局の垣根を超えて検討していくよう求めました。

七条地区へのクリーンセンター建設

反対の請願を採択

奈良市が七条地区で建設を計画しているクリーンセンターの問題は、議会に対して反対する請願が出されていましたが、策定委員会では委員12人中8人の賛成を得たことで市は正式に「建設候補地」と位置付けました。

また市の予定地に隣接している県立養護学校=写真=は、山下真知事と仲川元庸市長が移転することで合意されました。

策定委員会の議論を見届けてきた中、「可能な限り全会一致を目指して議論を尽くす」という申し入れ書にある項目など複数が実現しないまま「強引な進め方」だと市に指摘。また知事と市長と交わされた養護学校の移転の約束が、「確約」されたものであるのかとただしました。

地域の方々から七条地区への建設を反対する請願が議会に出されたことについて私は「他市町との広域化が前提にあった候補地で、現状は隣接する大和郡山市のごみ処理



場が稼働し続ける状態で、地域住民の意見や感情を考えるとこの請願に賛同したい」と述べ、現状のままでは、七条地区への建設は反対と表明し、この請願は議会で採択されました。

市は養護学校の移転について「知事、市長で確認書を交わし、一定の拘束力や責任が伴うもので、移転建替えは実現されるものと確信している」と説明。請願が採択されたことで市は「関係自治会で理解が進んでいないなどの理由で採択されたが、それらの意見は真摯に受け止め、その解消に努めて、議会からいただいた意見は策定委員会に報告し、審議をしていただく」と述べました。

地域ふれあい会館

各地域への早期整備求める

奈良市には、概ね小学校区ごとに設置している「地域ふれあい会館」があり、現在21館が設置されています。今年度は帝塚山地域ふれあい会館を整備中ですが、まだ未設置の地域もあります。今年度の市議会9月定例会の一般質問で私は、今後の設置方針など市の考えをただしました。

市は「地域ふれあい会館の整備については、地域自治協議会の活

動拠点として設置することを基本にしている。整備は、地域ふれあい会館設置の要望のあった地域の実情に応じ、老朽化した既存施設を解体撤去し、新しい施設の置き換えや他施設との複合化なども含め、地域と協議しながら進めていきたい」と答えました。

私は整備可能な地域については早期の整備を行い、各地域の期待と願いに応えてほしいと求めました。

奈良市産野菜の使用機会増

地産地消の給食へ

奈良市の学校給食は、物価高騰を受けて今年度、文部科学省が定めるカロリー摂取量を満たしていないことがわかり、市に対して改善を求めています。また奈良市産の食材を積極的に取り入れていくことも要望しており、今年度から奈良市産の野菜の使用機会が増えています。

私は、今後も子どもたちの栄養価を満たしつつ、安定した食材の調達、農業振興の観点から積極的な奈良市産の食材の活用を市に求めました。